

各事業会社の安全・安心への取り組み



低温物流事業

サービス品質のレベル向上を追求しています。

品質保証体制の再構築

物流サービスにおける品質保証体制の強化を目的に、品質保証や顧客満足の上をめざす品質マネジメントシステムを定めたISO9001規格の活用と認証取得事業所の拡大を進めてきました。

2004年度は、低温物流カンパニーが、本社低温物流事業部、(株)ロジスティクス・ネットワーク、並びに地域保管事業9社に本社化されたため、各社が品質マニュアルの見直しや品質保証体制の再構築に取り組み、外部審査を経て、各社ごとの新たな認証に移行しました。これにより、各社がその特性に応じて品質マネジメントシステムの活用を進めるための基礎を築くことができました。

ISO9001では、常に改善を継続することでさらに前進することが求められます。今後も認証取得事業所を拡大するとともに、ISO9001を活用した改善を進め、お客様により高いご満足がいただけるよう、物流サービスの向上に努めます。

新総合物流システムの導入を推進

2003年10月、物流業務の効率化に向けて、入荷から出荷までの作業時間一貫管理、商品識別・在庫管理、品質保持期限・賞味期限管理、トレーサビリティなどの機能を盛り込んだ新総合物流システム「Lixxi(リクシー)※」を開発・導入開始しました。このシステムをベースに、2004年12月の法令施行に対応した「国産牛肉固体識別番号のトレーサビリティ」システムを構築しました。

※「Logistics Information system21」の略。21世紀の物流情報システムを意味します。

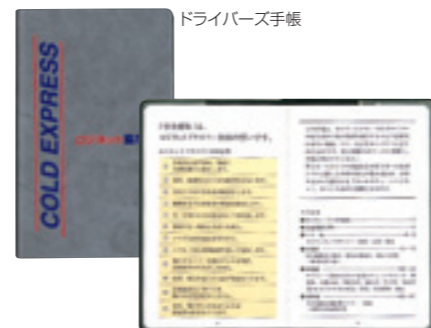


Lixxi 画面

“安全・品質”管理を徹底

(株)ロジスティクス・ネットワークは、2004年11月、温度管理基準、車両基準、輸配送業務手順を記した「品質管理基準書」を整理・改定しました。

また、協力運送会社63社を対象に「ドライバー教育」を実施し、セーフティドライバー研修や温度管理などの品質管理に関する研修を行いました。さらに、協力運送会社に対し、日常の行動基準を定めた「ドライバーズ手帳」を配布するなど、安全運転・適温管理の徹底に注力しています。



ドライバーズ手帳

TOPICS

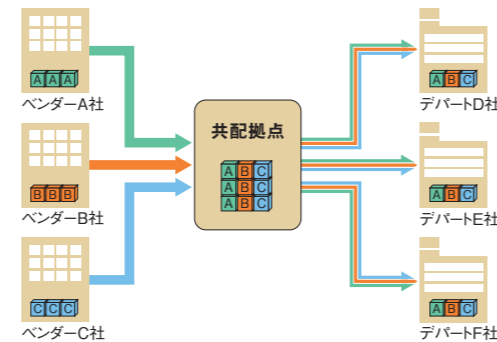
デパートにおける食品の共同配送を推進

デパート地下の食品売り場には、数多くのテナントの店舗があり、それぞれの納品車両が限られた納品口に集中するため、デパートの受入れ側で、納品車両の数や搬入時間のスリム化が課題となっていました。

そこで、2004年度から複数のテナントの納品を一括して行う共同配送のテスト導入を開始しました。この取り組みは、納品車両を大幅に減らし、デパートの受入れ作業がスムーズになるとともに、付近の渋滞解消や事故防止、CO₂削減にもつながることから、お客様である百貨店様、テナント様だけでなく、行政も強い関心を寄せています。

2005年度以降も、この共同配送の導入店舗を順次拡大し、環境負荷の軽減に少しでも寄与することをめざします。

共同配送の仕組み



今後の取り組み

- 品質管理の強化
- 共同配送の拡充
- ISO9001取得事業所数の拡大



バイオサイエンス事業

ISO13485に準拠したマネジメントシステムの運用を推進しています。

ISO13485を認証取得

2005年4月1日、医薬品の製造管理/品質管理基準がISO13485※に準拠することを盛り込んだ改正薬事法が施行されました。これに先立ち、ニチレイバイオサイエンスでは、2005年1月にISO13485認証を取得。体外診断薬のみならず、薬事法の規制対象外である研究試薬においてもこの管理体制を運用しています。

※ISO13485:品質マネジメントシステムの規格 ISO9001を基本とし、医療機器に特有な要求事項を加えた国際規格であり、各国の法規制に導入されつつあります。

品質保証体制を構築

品質保証部内にISO推進責任者、品質保証責任者、安全管理責任者を置き、品質保証および安全管理業務の管理・監督を行っています。

ISO推進責任者は、品質マネジメントシ

テム全体の確立、管理を担い、内部監査などを通じ、プロセスの実施状況の把握や改善を実施します。

品質保証責任者は、工場の品質管理部門とは別に、市場への出荷の管理許可、製造業務の管理・監督を行っています。また、作業品質の標準化と向上をめざし、基準書・手順書に沿った社員教育および薬事関連の法規制の改正などの情報収集と周知を図っています。

安全管理責任者は、市販後の安全情報の収集、他社回収・事故情報の収集を通じて事故の未然防止を担います。

リスクマネジメント

当社では、製品の企画から物流までのリスクを分析したうえで、製品化の決定をするとともに、製造後の再評価や顧客からのフィードバックを通して、製品の改善や次の製品開発につなげています。また、リスクマ

ネジメントに関連する情報の記録、共有を一元管理する仕組みを構築しています。

改善プロセスの強化

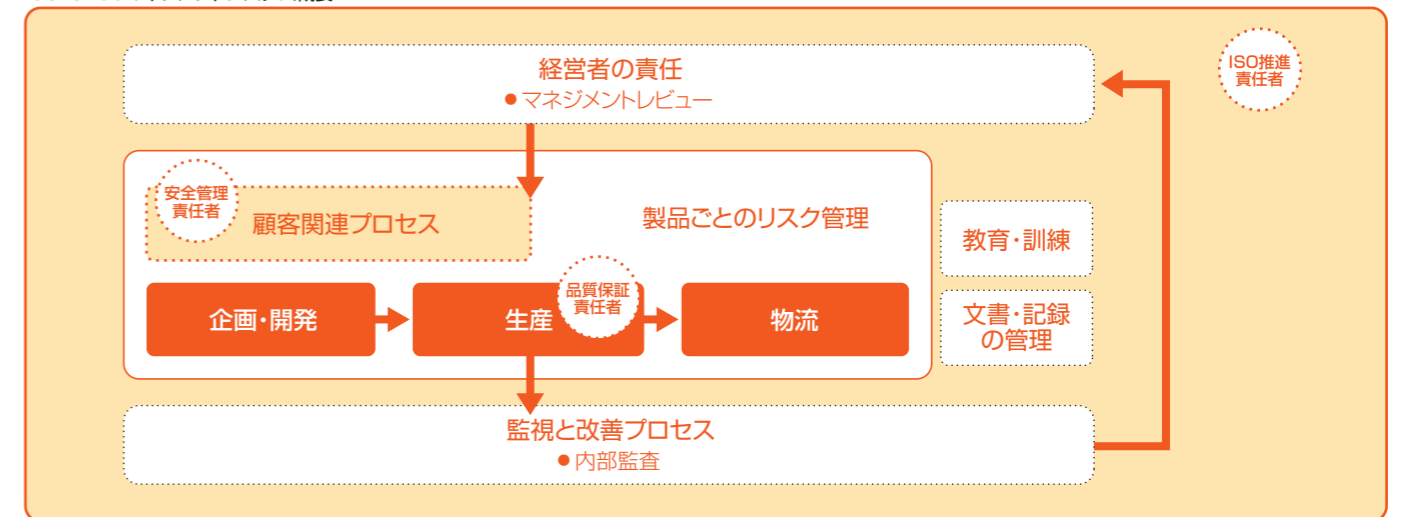
プロセスの効果的な運用を監視するために、内部監査を定期的に行い、品質マネジメントシステムの継続的な改善を行っています。

また、お客様からのクレームやお問い合わせを一元管理するデータベースを整備し、改善の進捗や、改善内容の評価を共有できる仕組みを構築しています。これらを含め、品質上の重要事項は、経営層によるマネジメントレビューの場で報告され、経営トップによる全体改善につなげています。



バイオクレームデータベース

ISO13485マネジメントシステム概要



今後の取り組み

- 品質マネジメントシステムの効果的な運用
- プロセス監視を通じて、改善の実績を蓄積